

## 溪谷へのトポフィリア -温泉街- 生を目的とした温泉療法を用いた建築の提案-

### Topophilia to the valley

#### Proposal of a new spa facility with a power generation function in Kinugawa Onsen

佐藤信治<sup>1</sup>, ○森 浩平<sup>2</sup>

shinjisato<sup>1</sup>,koheimori<sup>2</sup>

Rich Japan water resources and territory of 70% is a mountain third of the world , is a hot spring powerhouse with a hot springs of about 1,000 locations . Historic land , spa town that has been dug up along with the economic development now , it is considered to be a world heritage . However, in recent years , declining birthrate and aging population , competition of various places in the impact of population decline proceeds , in the financial crisis Onsen Ryokan , Hotel is increased , that a number of spa town has been decline the current state is . are tourism resources and the need only to new measures that do not rely advertising . Therefore, in the present plan was for the purpose of reproduction of the spa town of decline , was the main spa therapy , spa facilities , integrated accommodation We suggest turned into facilities .

#### 1.はじめに 日本と温泉

豊富な水資源と領土の7割が山である日本は世界の3分の1,約1,000カ所の温泉地を有する温泉大国である。歴史ある土地,経済発展とともに掘り起こされた温泉街は現在,世界的遺産だと考えられる。しかし近年,少子高齢化,人口減少の影響で各地の競争化は進み,経営危機にある温泉旅館,ホテルは増加し,数多くの温泉街は衰退しているのが現状である。観光資源と広告だけに頼らない新しい対策が必要とされている。そこで本計画では衰退する温泉街の再生を目的とした,温泉療法を主とした,温泉施設,宿泊施設を集積化した施設を提案する。

#### 2.計画背景

##### 2-1. 鬼怒川温泉

江戸時代は,江戸と会津若松を結ぶ会津西街道の宿場町で3 日,日光詣での大名や東照宮の僧侶の湯治場で3 日だったため,一般の人々は入浴することができなかった歴史を持つ。その後 1920 年代に鉄道が開通され,東京と結ばれると共に,鬼怒川温泉と命名された。1962 年の鬼怒川公園駅開設,1964 年の鬼怒川温泉駅の現在地への移転を経て,1970 年代以降温泉街の両駅周辺への拡大と施設の大型化8 進んだ。宿泊客数は,1993 年のピーク時には年間 341 万人を数えた。しかしその後は,景気の低迷や団体旅行の衰退などの影響で減少に転じ,その傾向8 続いている。

##### 2-2. 廃墟化しているホテルと景観

宿泊客数の減少の中で,休業・廃業する旅館ホテル 8 生じ,多くは廃墟化している。(fig1)温泉を利用した観光客からのアンケートによる鬼怒川温泉の魅力の第1位は,「自然8 豊かで風光明媚」であった。一方,旅館ホテルの経営者8 考える鬼怒川温泉の強みでは,風光明媚は,交通の便,全国的な知名度,周辺の観光地に次ぐ第4位に留まり,認識にギャップが存在し,風光明媚を象徴する鬼怒川の溪谷美は,川沿いに林立する大型の旅館ホテルに遮られ,溪谷の「大きな壁」となっている。これにより,知名度こそ高い鬼怒川だ8 ,実際に訪れた人々が体験的に溪谷を感じられないというギャップも存在し,リピート客の低下の原因とされる。



fig1. Hotel has become Big Wall

1 : 日大理工・専任講師・海建 Assistant Prof. of Oceanic Architecture & Eng. CST , Univ. Dr. Eng

2 : 日本大学・学部・海建, Department. of Oceanic Architecture & Eng. CST , Univ.

### 2-3. 失われた「温泉街らしい風景」

温泉を利用した観光客からのアンケートでは、大半の人8 温泉街に求めるものは「温泉街らしい風情」である。しかし鬼怒川温泉の現状は、顧客へのアンケートでは「街に活気8 ない」「さびれている」との指摘を多く受けるほど、人通り8 少なく、空店舗等8 目立つ状況である。旅館ホテルの経営者8 考える鬼怒川温泉の弱みでも、「風情に欠ける2 8 第1位となっている。専門家による評価では、共同湯、文化・展示施設、イベント・催し、情緒のある宿泊施設などはマイナス要素として指摘されている。空店舗活用の社会実験では、開設したゲームコーナーに多くの人8 訪れ、温泉街らしい賑わいを求めていること8 裏付けられた。かつては鬼怒川温泉にも旧温泉街地区を中心に賑わいある商店街8 形成されていた時期8 あった8、旅館ホテルの大型化や温泉街の南北への拡大とともに温泉街の風情は失われている。

### 2-4 大雨による水害

平成 27 年度台風 18 号による東北、北関東を襲った記録的豪雨は下流部の茨城県常総市で堤防が決壊し、最大浸水想定区域約 37 平方キロメートルと大規模な水害となった。鬼怒川温泉では、廃ホテルが崩れ落ちるなどの事故から、廃墟化した建造物の危険性が懸念される。

### 3. 基本計画

本提案では温泉施設、宿泊施設、マイクロ水力発電を利用した発電施設を計画する。廃墟化したホテルを解体、修繕し、新しいの溪谷の姿を構想する。

地形が持つリスクとポテンシャルを一体的に捉える事で地域特有の小さいインフラのあり方、また環境と建築の密接な関わりを形成する、大きなインフラによって成立する近代的な都市システムに依存せず、エネルギー、交通、動線、環境に向かい合い、かつての集落のような自立可能な地域社会の形成を試みる。



Fig.2 Proposed site area

### 4. 建築計画 「展開と拡散」「崖地の建築化」

大型リゾートホテル、溪谷、廃墟化した多くのホテル、四季折々変化する樹木、それらの「風景」を包括して全体を構成する。

かつての大型の温泉旅館の一度に町に溢れていた要素を吸い上げ、中で完結していた関係を紐解き、再び町全体で大きな共同体を生む事を目的とする。既存の廃墟化したホテルを計画敷地として計画する。かつて垂直に伸びるホテル群を解体、改修を行い大きなランドスケープを行うように計画する、また溪谷の垂直に伸びる視線のヌケと動線を絡めあわせて、訪れた人々がこの場所全体を歩き回るように計画する。

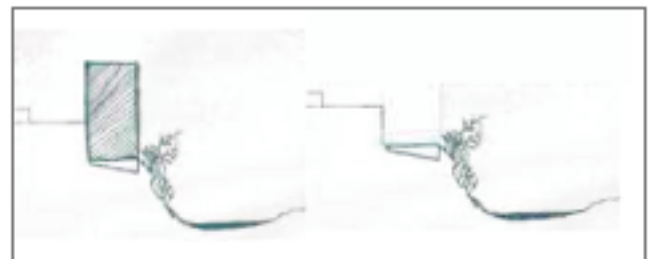


Fig.3 Proposed diagram

温泉街の経済需要を受け入れた、かつてのボリュームを再構成し、新しい「カタチ」を計画する。(Fig.3)

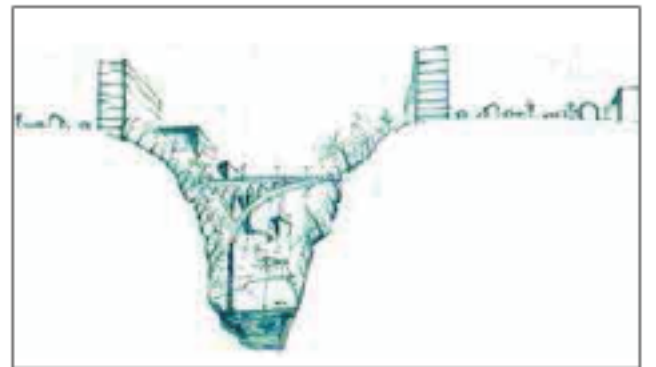


Fig.4 vally image section

衰退する土地で一度に大規模な計画を行う事が困難であると想定される。時間経過を含めた計画とする。

3 次元の構築物である建築に時間の経過を加える事により、4 次元へと展開していく事を想定していく。

### 5 参考文献

- [1]野口冬人：「溪谷の温泉宿」
- [2]下野新聞：「地域再生・鬼怒川温泉2」
- [3]群可勇：「究極の温泉 伝統建築編」
- [4]建築思想研究所：「温泉・クア施設」
- [5]建築思想研究所：「温泉・クア施設 2」